

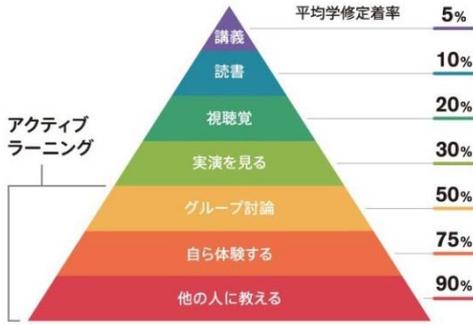
彼方「かなた」

校長通信
H30.10.9
Vol.19

【なぜアクティブラーニングなのか？】

アクティブラーニング（以下AL）は、2020年の東京オリンピックの年から新しく実施される学習指導要領の中で謳われている指導法改善の視点です。中学校は、2021年度の完全実施に向けて今年度から前倒しで取り組んでいます。そこでALについてみんなで共通理解していきたいと思っています。

新しい学習指導要領ではALは、「主体的・対話的で深い学び」と記されていますが、2012年には次のように示されました。「ALとは、教員による一方的な講義形式の教育とは違って、生徒たちの能動的な参加を採り入れた指導・学習方法の総称で、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などが含まれる。教室内でのグループディスカッションやダイアログ、グループワークなども有効な方法である。」



出典：The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories

アメリカ国立訓練研究所という機関が発表した研究結果があります。それが、ラーニングピラミッドと呼ばれる上の図です。学習方法による定着度を表した図です。講義や読書、視聴覚、実演を見る

といった一般的には受け身といわれる学習方法ではなかなか学習内容が定着しませんが、グループ討議や体験学習、他の人に教えるといった主体的な学習方法による定着率はとても高いのです。それだけでALが推奨されるわけではありませんが、結果としてはとても受け入れやすいと思います。

でも忘れてならないのは、「受け身にならずに能動的（自ら他に働きかけるさま）に取り組むこと」なのです。前半のパーセントが低い学習方法でも自分で考えながら聴き、わからないところは積極的に質問する姿勢があれば、おのずとパーセントは上がってきます。逆に後半のAL型の学習方法でも、させられている感覚が強かったり、自分から積極的に参加をしなければ当然パーセントは下がってきます。

要は、「自ら考え、表現する」という力が育たなければ学力の向上は望めないのです。

授業や家庭学習を通して「勉強が楽しい、勉強がおもしろい、勉強したい」という気持ちが高まれば高まるほど、その学習はAL型になっているのです。昨年度の朝礼の中で「ビリギャル」の話をしました。わからなかったことがわかるようになり、できなかったことができるようになるのは、本当に楽しいことです。彼女は、「勉強」というのは楽しいものという実感を得たのです。ALはそ



ういう「勉強が大好き」という生徒になるのをサポートする学びです。そこで、白山中では昨年度から「自ら、共に学び、活用できる生徒をめざす!」という研究テーマを設けて、AL型の授業になるようにどの教科も授業改善を進めています。わからないところを自分から「教えて!」と言い、わかるまで質問し、訊かれたら相手が納得するまでいろいろ手を変え品を変えて説明するという班でのやり取りやグループ課題に対する話し合い、作業を多く取り入れて、少しでも「自分から」というのできるように工夫してきました。

特に三年生は、卒業後の進路実現が待っています。やらされている学習から自ら求める学習に変えていくことが本当に大切になってきます。先生の話を積極的に聴くことや他の生徒の発表に真剣に耳を傾けること、そして考えたことを積極的に表現することがALであり、学力を高めていくのです。

授業形態を個別↓ペア・グループ活動↓全体発表↓個別という流れにしたり、まとめを80字以内（二文を接続詞でつなぐ）で書いたりというように先生方も授業を変えようと頑張っています。皆さんはどういう態度で授業に臨めばよいのでしょうか？ただ座っているだけではALではありません。まずは「自分で考えること」です。そしてわからなければ「自分から訊くこと」です。または、訊かれたら「わかるまで説明すること」です。最後にわかったことやできたこと、感想を含めて「80字以内で表現すること」です。全員で最高の授業をつくっていきましょう!